

「第1回 豊橋市都市交通計画検討委員会」議事録

○日 時 平成26年8月29日（金） 15時～17時

○場 所 豊橋市役所 西館7階 第1委員会室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 2名

○事務局 7名

〔会議資料〕

◆次第

◆出席者名簿

【資料1】豊橋市都市交通計画検討委員会設置要綱

【資料2】豊橋市都市交通計画検討委員会の運営について（案）

【資料3】豊橋市都市交通計画検討委員会傍聴要領（案）

【資料4】豊橋市都市交通計画検討委員会作業部会会員名簿（案）

【資料5】計画の目的及び位置付け並びに検討の進め方等について

【資料6】現状の把握及び課題整理について

【資料7】次回会議に向けた今後の調査・検討項目について

参考資料：都市交通マスタープラン概要パンフレット、公共交通マップ（2013年版）

議 事

1. 開会

2. 挨拶

- ・木村副市長より挨拶

3. 各委員の紹介

- ・各委員の自己紹介
- ・事務局の紹介

4. 豊橋市都市交通計画検討委員会設置要綱について

- ・事務局より、豊橋市都市交通計画検討委員会設置要綱についての説明が資料1に基づいて行われた。

〔質疑〕

なし

5. 委員長の選出及び副委員長の指名について

- ・委員の互選により、委員長として竹内委員が選出された。
- ・竹内委員長より挨拶
- ・委員長より、副委員長として廣畠委員が指名された。

6. 議事

(1) 委員会の運営および傍聴について

- ・事務局より、豊橋市都市交通計画検討委員会の運営についての説明が資料2に基づいて行われた。
- ・引き続き事務局より、豊橋市都市交通計画検討委員会傍聴要領についての説明が資料3に基づいて行われた。

〔質疑〕

なし

- ・委員長より、議案(1)について諮ったところ、全会一致で承認された。
(傍聴者入場)

(2) 作業部会の設置について

- ・事務局より、作業部会の設置についての説明が資料4に基づいて行われた。

〔質疑〕

なし

- ・委員長より、議案（２）について諮ったところ、全会一致で承認された。
- ・委員長より、作業部会の部会長として事務局の西郷都市計画部長が指名された。

（３）計画の目的及び位置付け並びに検討の進め方等について

- ・事務局より、計画の目的及び位置付け並びに検討の進め方等についての説明が資料５に基づいて行われた。

〔質疑〕

（委員）

- ・資料中の表現として、過度に「自動車」交通に依存しない、「自動車」交通、「自動車」優先などの言葉があるが、「自家用車」のことを指しているという理解でいいか。
- ・もう１点、検討の進め方と内容は、今後話し合っていく中で変更の必要性が出てくる可能性があるが、どの程度柔軟に対応されるのか。

（事務局）

- ・１点目については、自家用車と読み替えていただいて問題ない。
- ・２点目については、委員会及び作業部会で意見をいただく中で、必要であれば変更していく対応になる。

（委員）

- ・是非、柔軟性を持って進めてもらうことを希望する。
- ・委員長より、柔軟性を持った対応も含めて、議案（３）について諮ったところ、全会一致で承認された。

（４）現状の把握及び課題整理について

- ・事務局より、現状の把握及び課題整理についての説明が資料６に基づいて行われた。

〔質疑〕

（委員）

- ・１３ページの公共交通利用圏域の考え方は、全国共通の概念か。
- ・もう１点、１８ページの二川駅の交通結節状況の記載にタクシー乗り場がないが、あるはずなので確認してほしい。

（事務局）

- ・二川駅にタクシー乗り場があるので、修正する。
- ・公共交通利用圏域については、乗合型の公共交通を評価するのに、カバー率の対象を面積にするか人口にするかは都市によって様々であるが、人口を用いている都市もある。カバー率を考える上で、鉄道駅勢圏は半径７００ｍ、路面電車電停、バス停勢圏は半径４００ｍの値

は豊橋独自の設定である。

(委員)

- ・25ページの目標達成状況について、「ノーカーデー」「フレックスタイム制」の取組みの記載があり、平成25年度は「○」印になっているが、それに関する市の広報を見たことが無い。事業者にどのように周知しているのか。豊橋市役所では「ノーカーデー」や「フレックスタイム制」に取り組んでいるのか。
- ・「パーク＆ライド駐車場の確保台数」について、平成22年度実績が556台、平成25年度実績が519台で減っているにも関わらず、「○」印になっている理由が分からない。

(事務局)

- ・「ノーカーデー」と「カーフリーデー」という考え方があり、世界イベントで行われている「カーフリーデー」に、豊橋市は昨年度から参加している。市全体で「カーフリーデー」を実施したので、平成25年度は「○」印にしている。市役所では、毎週水曜日に「ノーカーデー」を以前から取り組んでいる。エコ通勤についても取り組んでいるが、「フレックスタイム制」については、市の業務自体がそういう状況にないので、市役所としては取り組んでいない。ただ企業の中には、交通渋滞削減を目指して業務時間をずらしているところがある。
- ・「パーク＆ライド駐車場の確保台数」については、平成22年度の目標値480台に対する達成状況を示したものである。

(委員)

- ・豊橋市としては、集約型の都市構造、コンパクトな街づくりを目指すところ。私は豊橋市の中では過疎地域に住んでおり、柿の里バスなど走らせていただき大変助かっているが、この住民ニーズに応える路線の設定はコンパクトな街づくりや集約型都市構造とは相反するものがある。少し景気が上向いてきたとはいえ、市の財政は楽ではないと思うので、都市交通に大幅な財政の手当てはできない。そのような中で高齢化はますます進み、主要施設は拡がりを見せている。地域によってはバスの運行本数が極めて少なく、やむなく自転車や親の送迎で通学しているところもあり、地域ニーズに応じた交通整備をしなければならないが、目指す都市像とは相反する施策になってしまう。豊橋市としては基本的にどのような方向性を向いているのか。課題をどのように解決していくのか伺いたい。

(事務局)

- ・まさに、国内の各地方都市が抱えている問題である。こうなった理由は、自家用車の利用が伸びたことであり、自家用車で色々な場所へ行けるため、都市の拡散が進行したことにある。しかし、少子化・高齢化が進む中で、今の街の形を維持していくのは難しく、車を利用できない方もいる中で、移動手段をどうしていくのかも問題と考えている。それに対し、都市計画マスタープランで掲げる集約型都市構造を目指すことを基本的な方向と考えている。集約型とは豊橋駅周辺だけではなく、周辺の様々な地域の拠点に来てもらえるようにし、日常生活を営めるような形とし、豊橋駅周辺にはより高度な施設を集約して、レベルの高い活動ができるような形にしたい。将来的には歩いて暮らせる範囲の中に集約化

することができれば、車を利用できない人にとっても暮らしやすい街になると考えられ、財政状況が厳しい中でも必要な支出の抑制につながると考えている。難しい問題であるが、このことを踏まえて計画策定に取り組んでいきたい。

(委員長)

- ・ご指摘いただいた点は、大きな問題である。この矛盾する問題に対し、克服する解決策はあるのか、ないとすればどう調整していくのかが、この委員会の重要な論点になっていくと思う。次回以降では、こうすべきといった提案をいただくと、委員会での議論が活性化すると思うので、次回以降の委員会ではこのような問題を議論できるようにしていきたい。

(委員)

- ・政策指標の目標である代表交通手段の分担率が自動車62%、その他38%に対し、平成23年度の実績では自動車70%、その他30%と逆の方向に進行している点について、原因を分析する資料は出てくるのか。

(事務局)

- ・原因は自家用車の利用が進んだことにあり、自家用車以外への交通手段への転換を促す施策が不足していた。今後、何が有効かをこの委員会でも議論し、新たな施策を考えて、目標に近づけるように取り組んでいきたい。

- ・委員長より、議案（4）について、今回の資料をベースにして整理を進めていくことを諮ったところ、全会一致で承認された。

(5) 次回会議に向けた今後の調査・検討項目について

- ・事務局より、次回会議に向けた今後の調査・検討項目についての説明が資料7に基づいて行われた。

[質疑]

(委員長)

- ・アンケートは、具体的には作業部会で決めていくのか。交通事業者の協力も必要になる。

(事務局)

- ・基本的には学識者の先生にご教授いただき、交通事業者の方にもご意見いただきながら、まとめていきたい。

(委員)

- ・路面電車とバスに関するアンケートは行われるが、渥美線はなぜ外しているのか。

(事務局)

- ・渥美線については、市民アンケートの中で把握していきたいと考えている。路面電車については、特に力を入れて意見を聞きたいと考えた。

(委員)

- ・路面電車に特化する理由が分かりにくい。

(事務局)

- ・路面電車は豊橋のシンボルであり、豊橋市をアピールする上でも、市民の交通を支える上でも必要な交通手段と考えており、また、今まで沿線住民に聞いたことがなかったこともあるため、今回、重点的に聞きたいと考えた。

(委員)

- ・アンケートの作成段階で、交通事業者としてもアンケートの内容に意見を言える手順はあるのか確認したい。

(事務局)

- ・事前に確認していただき、ご意見をいただきたいと考えている。

(委員)

- ・公共交通の一環として、タクシーのことも聞くようにしてほしい。

(委員)

- ・市外からのトリップが20%程度あるので、隣接する田原市、豊川市、湖西市等で交通に関する調査があれば、その結果を参考にして、周辺都市のパークアンドライドや乗換え機能などの意見を聞けたら良いと思う。

(委員長)

- ・行政の計画は市域にこだわる傾向にあるが、人口が減少する中で、これからは交流人口が大切になるので、市内外の動きについても配慮する必要がある。

(事務局)

- ・周辺都市の状況の把握も大切であるので、各市から資料の入手を行っていききたい。また、周辺都市の方々にもオブザーバーの形で委員会に参加していただくことも検討したい。

(委員)

- ・現況の詳細分析は、次回までに行うという理解でいいか。その際には、アンケート結果の分析も含まれるということでもいいか。予測できるような形の分析をしないと、事後評価や検証ができない。どの程度の詳細分析がなされるのか聞きたい。

(事務局)

- ・次回までに、現況分析やアンケートの結果を示す予定である。また、予測や分析の方法については、先生方にご教授していただきながら検討したいと考えている。

(委員長)

- ・現況の詳細分析は次回の第2回委員会が目標ではあるものの、じっくりやるべきものは相応の対応で進めていけば良いと思われる。

(委員)

- ・政策指標の代表交通手段の自動車利用分担率は、平成13年度実績の65%から平成27年度には62%にする目標となっているが、当時の目標設定の過程を確認することによって、先ほど意見のあった分析にもつながっていくのではないかと思う。

(委員長)

- ・ 当時は数値目標の設定が主流であったが、今は数値目標にこだわることに意味があるのかを見つめ直す時期でもある。このことの解釈と、現状分析に関する指摘も含めて、詳細に分析する必要があるので、指摘の点は継続審議として扱うこととしたい。

(委員)

- ・ 前回の都市交通マスタープランは集約型都市構造が強く打ち出されていない中で策定されたが、今回はそこに重点が置かれていることを前提条件として、都市計画マスタープランの中で豊橋市がどのような方向で集約型都市構造を考えているのかという大まかな目標と、その考え方に基づいた人口分布の詳細分析を示していただくと、議論がしやすいと思う。

(委員長)

- ・ その点については、第2回委員会に向けての課題にさせていただく。
- ・ 委員長より、議案（5）について、各委員の意見をふまえ、調査・検討を進めていくことを諮ったところ、全会一致で承認された。

7. その他

〔質疑〕

なし

8. 閉会

- ・ 事務局の西郷都市計画部長から閉会の挨拶と、第2回委員会の開催日を12月12日（金）の15時からとすることの案内があり、会議は終了した。

以上